

平成 22 年 4 月 28 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2006～2010
課題番号：19791556
研究課題名（和文）舌扁平上皮癌におけるリンパ節微小転移の検討
研究課題名（英文）Analysis of lymph node micrometastasis in squamous cell carcinoma of the tongue
研究代表者：
阿部 厚（Atsushi Abe）
愛知学院大学・歯学部・講師
研究者番号：30329619

研究代表者の専門分野：外科系歯学
科研費の分科・細目：腫瘍
キーワード：1) ヒト口腔扁平上皮癌 2) Podoplanin

1. 研究計画の概要

口腔領域において高頻度に発生する舌癌は早期にリンパ節転移をきたすことや、健側リンパ節への跳躍転移など転移経路に関して不明な点が多い。したがって、悪性腫瘍に分布するリンパ管を検索し、微小循環の特性を解明することが、きわめて重要であるといえる。しかし、これまで微小循環系を構成している末梢リンパ管は光顕的な鑑別が困難なため、詳細な報告はあまりない。したがって腫瘍組織におけるリンパ管の新生、構築を解析し、リンパ管内に侵入した腫瘍細胞が数々の免疫防御機構を回避して、定着・増殖していくのかを検討することにより腫瘍細胞のリンパ管浸潤・転移過程が解明できるものと思われる。

2. 研究の進捗状況

これまでにリンパ管内皮細胞などの新しいマーカーであるポドプラニンが正常口腔粘膜でも基底細胞層に一致して発現すること、口腔扁平上皮癌においては約70%の高頻度で発現すること、さらに角化型扁平上皮癌では基底細胞層に局限して発現するのに対し、低分化型の扁平上皮癌ではびまん性に発現するこ

となどが明らかとなった。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。
(理由)研究開始当初はリンパ管内皮細胞の形態のみに着目していたが、リンパ管内皮細胞などの新しいマーカーであるポドプラニンの発現が明らかとなったため

4. 今後の研究の推進方策

本年度は口腔扁平上皮癌細胞を用いて、TGF-刺激によりポドプラニン発現が充進するか否かについてウェスタンブロットにより検討する。また、ポドプラニン発現と、血行性・リンパ行性転移との相関について、in vivoにて免疫染色等を用いて検討する予定である

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1) 口腔扁平上皮癌におけるポドプラニンの発現とTGF-βによる発現誘導、太田充彦，中西速夫，阿部厚，大野ふみ，木下篤敬，栗田賢一
— 愛知学院大学歯学会誌 In press 2010

査読の有

〔学会発表〕(計1件)

1) TGF- β による口腔扁平上皮癌にポドプラニン発現の制御、太田充彦, 中西速夫, 阿部厚, 大野ふみ, 木下篤敬, 栗田賢一 日本口腔外科学会雑誌 55巻 Suppl. Page208 2009

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕